

## 第 49 回衆議院議員選挙結果を踏まえてのコメント

2021年11月1日  
日本鉄道労働組合連合会（JR連合）

第 49 回衆議院議員選挙において、ご支援ご尽力いただいた組合員や家族の皆さまに御礼申し上げます。また、推薦候補の必勝に向けて献身的に奮闘されたすべての関係者にも敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

4年ぶりとなる今回の衆院選は、2012年からの第2次安倍政権以降8年10か月に及んだ自民・公明連立政権、国会・国民軽視の驕りが見られる自民一強政治への評価が問われる選挙であった。新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）が世界を蹂躪し、国民が生活苦や将来不安に陥る中、各種支援策や経済回復と国民への分配政策のあり方が主な争点となった。そして、野党5党は全289小選挙区のうち213選挙区で候補者を一本化し、132選挙区において事実上の与野党一騎打ちの構図が生まれた。

こうした中、JR連合は各単組からの推薦にもとづき、連合の方針およびJR連合の掲げる運動理念、諸政策に賛同する候補者138名の推薦を決定し、当選に向けた取り組みを全国で展開してきた。とりわけ、JR連合国会議員懇談会の副会長である泉健太氏（京都3区）や、同事務局長である小川淳也氏（香川1区）、同幹事である岸本周平氏（和歌山1区）、広田一氏（高知2区）、原口一博氏（佐賀1区）、大串博志氏（佐賀2区）に加え、元副会長である伴野豊氏（愛知8区）の7名を最重点候補者に、また「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する候補者を重点候補者に指定し、コロナ禍への対策をはじめとする候補者各位からのJR連合への支援に応えるべく、各単組の最大限の支援により選挙戦を闘い抜いた。

10月31日に行われた投開票の結果、自民・公明の両党は公示前より12議席を失ったものの293議席を獲得し、絶対的安定多数を確保した。また自民党は15議席を失ったものの261議席を獲得し、単独過半数を確保した。一方で、野党勢力は、国民民主党が公示前より3議席増の11議席を確保したものの、立憲民主党は14議席を失い96議席獲得に留まるという極めて厳しい結果となった。JR連合としては、最重点および重点候補者の25名を含む推薦候補者58名の当選を果たしたが、最重点候補者の一人である広田一氏をはじめ、誠に残念ながら複数の推薦候補者が当選に至らなかった。今選挙では、総じて野党に政権を託すという機運は高まらず、勢力構造を変えることはできなかった。政権交代可能な二大政党制の構築に向けては、投票率が約55%と低迷し、政治への関心が高まらなかった今選挙結果を深刻に受け止め、課題を検証しつつ、次期参議院議員選挙とさらなる未来を視野に入れた取り組みが求められる。

コロナ禍により経営危機に陥った交通運輸・観光サービス産業に対する支援策や、度重なる自然災害への対応、労働法制、社会保障、教育・子育てなど、国民・働く者の生活に直結し、かつ個別労使では解決し得ない大きな課題が山積する中、解決・前進を図るためには、国政の場で我々の声を代弁する政治勢力との連携が欠かせない。JR連合は今選挙の結果を真摯に受け止め、引き続き政界の動向を注視しつつ、議員懇談会および議員フォーラムの体制を見直すとともに体制強化を図り、政策課題、組織課題の解決に向け取り組んでいく。併せて、来夏に控える参議院議員選挙に向けて、引き続き組織内においても、政治活動の意義の浸透やさらなる政治への参画意識の醸成などについて議論を深めつつ、次なる国政選挙への対応を進めていくこととする。

以上